



咬合学

セミナー

Slavicek Concept (咬合学) を ベースにした診査・診断の基本

ウィーン大学のR. Slavicek教授とインスブルグ大学のS. Kulmer教授らが1970年代後半から1980年代前半に提唱したSlavicek Conceptは、“生体に調和した咬合とはどのようなものであるべきか”についての一つの答えが提示した咬合理論である。本特集では、このオーストリアにおける咬合学について、理論および診査・診断・治療の基本とその効果を、症例を交えて解説いただく。



田嶋 健

Ken TAJIMA

東京都・田嶋歯科医院
〒103-0004

東京都中央区東日本橋3丁目9-15
グラニート丸糸ビル3F



栗林研治

Kenji KURIBAYASHI

千葉県・栗林歯科医院
〒279-0023

千葉県浦安市高洲2丁目4-10 2F
インシップ医療モール内

CONTENTS

- 咬み合わせが悪いことによる弊害
咬合治療はなぜ難しいのか？（栗林）
- Slavicek Conceptをベースにした診査・診断・治療の進め方（田嶋）
- Slavicek Conceptの学び方（田嶋・栗林）

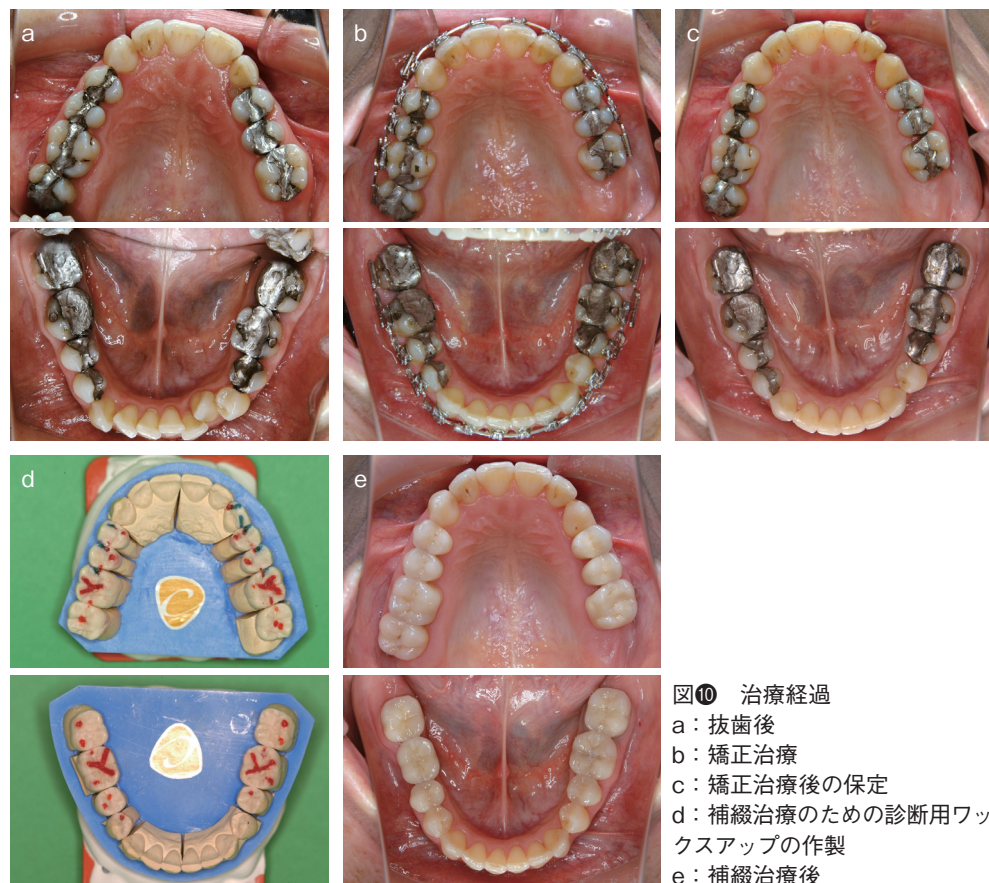


図10 治療経過
a: 抜歯後
b: 矯正治療
c: 矯正治療後の保定
d: 補綴治療のための診断用ワックスアップの作製
e: 補綴治療後

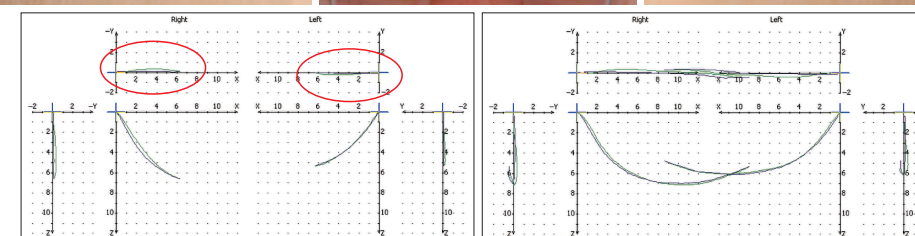
Slavicek Conceptを 治療のベースにする利点

Slavicek Conceptの大きな利点としては、臨床に直結したフィロソフィーである。とくに、咬合平面と咬合高径の解析ができることにある。これらの解析の結果、その患者の個々の治療目標としての方向性や角度設定ができるようになる。その理由として咬合器、セファログラム、下顎運動測定器の3つの検査項目には、ある共通の基準平面（アキシスオルビタールプレーンもしくはフランクフルトプレーン）を用いることによって、互換性のある動的診断が行える。動的診断はダイナミックスアプローチともいい、いわゆる静的な二次元から三次元の動的診断が下顎運動測定器を用いることによって可能となった。

もう一つの利点として、これらの診断によって得られた情報を用いて治療を行うことによって、Longevity（動的長期安定性）が得られやすいというものがある。それは、静的なLong Term Stability（静的長期安定性）とは違った概念であり、「生きている動的な生体に調和した噛み合わせとは何か？」を追求した本コンセプトならではの結果である。

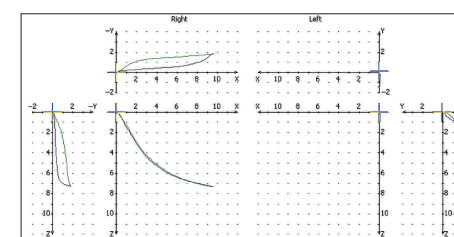
最後に、症例の8年後の経過を示す(図11)。患者は定期的なメンテナンスのために来院している。6の遠心咬頭部位のセラミック修復部にチッピングがあり、術前と同様の診査・診断を行ったところ、特記する内容はなかった。

現在、患者は痛みや悩みなどなく、笑顔ある幸せな日々を過ごしている(図12)。



a: Pro-Re (前方後方運動)

b: Open-Close (開閉口運動)



c: M-Right (左側方運動)

d: M-Left (右側方運動)

図11 8年後の経過。咬合治療により、右側方のずれが是正され、顎がまっすぐに動くようになった (a: 赤丸部)



図12 患者と筆者。患者は痛みから解放されて、笑顔ある幸せな日々を過ごしている

Slavicek Conceptの学び方

東京都・田嶋歯科医院
田嶋 健 Ken TAJIMA

千葉県・栗林歯科医院
栗林研治 Kenji KURIBAYASHI

自分自身とスタッフ そしてスタッフの育成 (栗林)

Slavicek Conceptを学んだとき、「どのように患者に活かすのか？」という点が、気になった。人が育つには、①自分が立てた目標、②繰り返し行うことの2つが大事である。

①を充実させるには、お手本を叩き台にして自分自身で気づきを得なければならない。筆者もお手本であるSlavicek教授のもとに何度も足を運んだ。もし、Slavicek Conceptに興味をもたれた方は、まずは私か田嶋先生のもとを訪ねることをお勧めする。

②を充実させるために当院では、Talknoteという社内SNSサービスを活用している。患者データやスタッフ育成のマニュアルが管理されており、検索すればすぐにデータを引き出せるため、反復するには最適である。そして、視覚素材はゴールがイメージしやすく、上達が早くなる。

咬合を学びたい方へのメッセージ (田嶋)

私は約7年間本場ヨーロッパ、ウィーンでSlavicek教授から直接学んだことを、日常臨床に落とし込んでいる。目の前の患者は骨格関係、咬合関係、咬合平面、咬合高径、ガイダンス、顎位のどこに問題があるかを診査し、たいへん充実した毎日を過ごしている。Slavicek教授のもとで得た経験は世界中の患者に通用し、非常に良好な結果が得られるため、世界に通用する学問であると日々実感し

ている。

これからは、手先の技術だけではなく本来の意味で“患者と向き合い、寄り添う”という医療人としての心構えが大切である。これを突き通すことにより、人生を通じて自分の周りに本当の仲間が増えていくのである。われわれのフィロソフィーともいえるSlavicek Conceptによって、歯科人生はよい方向へ向かっていくと思われる。

【参考文献】

- 1) Rudolf Slavicek: The Masticatory Organ Functions and Dysfunctions. Gamma Med, Klossernewburg, 2006.
- 2) Rudolf Slavicek: Concepts in Oral Medicine. Gamma Med, 2000.

フロイデ・インターナショナル・ アカデミーのご案内



わが国で Slavicek Concept を学ぶ場としてフロイデ・インターナショナル・アカデミーがあります。フロイデ (freude) とは、ドイツ語で“喜び”を意味し、この場を通して歯科医療従事者である仲間の皆様と歯科人生の“喜び”を分かち合いたいと思います。

「ベーシックコース」では、診査・診断方法や Slavicek Concept の基本概念をお伝えしています。

- ・コース内容：Slavicek 教授のセミナーを完全再現したレッスン（実習も含む）全6回

詳細はHPをご覧ください。

HP：http://tajimadc.com/freude/

